令和６年度　笠間市立病院経営強化プラン点検・評価について

笠間市立病院経営強化プランの進捗状況について、笠間市立病院内部の点検および外部評価として、会計事務所および茨城県国民健康保険診療施設協議会による点検・評価を受けました。その結果、国民健康保険運営協議会として、笠間市立病院経営強化プランの進捗状況に関する総合的な点検・評価を実施しました。

まず、経営効率化についてですが、経常収支比率が 90.0％を見込んでいるものの、計画値に対して 4.7 ポイント、前年度比で 3.0 ポイントの減少が見込まれ、減少傾向が続くことは懸念されます。今後は収支改善に向けた具体的な取り組みが求められます。病床利用率は 86.7％の見込み計画値より 0.3 ポイントの減少をしているもの、前年度比では 1.3 ポイントの増加が見込まれており、一定の評価ができます。しかし、計画値を下回ることは課題であり、今後、ニーズに応じた病床の運用やサービスの向上が重要であると考えられます。

目標達成に向けた具体的な取り組みとして、令和６年度には一般病床のうち２床を地域包括ケア病床に変更するなど、収益改善に努めています。また、令和５年度より訪問診療、訪問看護、訪問リハビリテーションにおいて患者数が増加しており、地域の実情に適切に応えていることがうかがえます。特に、訪問看護の収益改善計画を立て、実行していることは、病院の経営にとっても重要な意義があると考えられます。さらに、常勤医師を正職員として採用したことは、医師不足の解消に向けた重要な一歩です。外来患者数を維持するためには、地域住民に対する情報発信を強化し、市立病院のサービスや専門外来のメリットを広く周知することが必要です。

本協議会としては、生活習慣病の増加に伴い、今後は予防医学への貢献が求められると考えます。また、高齢化や人口減少が進む中、医療は施設医療から地域医療にパラダイムシフトしており、特にターミナルケアやがん末期の方々のニーズが増加しています。以前よりは訪問看護や在宅医療が浸透してきてはおりますが、未だ、潜在化しているニーズがあると思われます。今後は地域医療への対応が一層重要になってまいりますので、訪問医療の分野におけるニーズを探ることも重要な取り組みであると考えます。さらに、適正な医療の提供により重症化を予防するためにも、遠隔医療の活用も注目すべきポイントであり、医療のデジタルトランスフォーメーション（ＤＸ）の推進も重要な課題となります。

総じて、笠間市立病院経営強化プランに基づき、目標達成のために具体的な取り組みを進めている一方で、課題もあることが確認されました。これらの課題を改善することにより、さらなる経営の効率化と医療の質の向上を目指し、今後も地域住民により良い医療を提供されることを期待いたします。

令和７年３月１日

笠間市国民健康保険運営協議会
会　長　　市　川　定　子